

【クレーム情報】

中綿羽毛の片寄り

厳しい寒さとなった今シーズンは、羽毛を使ったジャケットやコートなどが売り切れになるほどの人気があったとのこと。冬物の衣料品がクリーニングに出されるこの時期、羽毛製品に特有の事故を紹介する。

事故の状態

キルティングで四角く区切られたなかに入っている羽毛が下の方に移動して、片寄ったように集まっている。

あり、通常は両方を混合して使っている。一般にはダウンの混用率の高いものほど高級とされており、中綿素材として優れた保温性、吸湿性と透湿性、圧縮回復性などの機能と特性を持つことで知られている。

品に特有のふくらみの消失や中綿の片寄りなどは生じにくい。ただし、強い揉み作用が加えられた場合には、羽毛同士が絡み合い、ふくらみの消失や片寄りなどが生じることがある。

原因

キルティングで区切った容積に対して、なかに入っている羽毛の量が少ないために、羽毛が自然に下の方に移動して片寄りができたもの。

圧縮回復性

水鳥の胸の部分に生えているワタ羽のダウンは、タンポポの種子のような形状で、中央に核（元羽軸）を持ち、ここから放射状にしなやかな羽枝が伸び、さらにその左右に小羽枝がついている。

事故防止システムで検索

日本繊維製品・クリーニング協議会が運営する「クリーニング事故防止システム」でダウンジャケットの事故を検索すると78件の事故情報が確認できる（3月5日現在）。

事故の防止対策

キルティングの容積に見合う十分な量の羽毛を充填した製品を製造すること。

基本的に羽毛の量が少ないことが原因で発生する現象のため、クリーニングの段階で防止する方法はない。

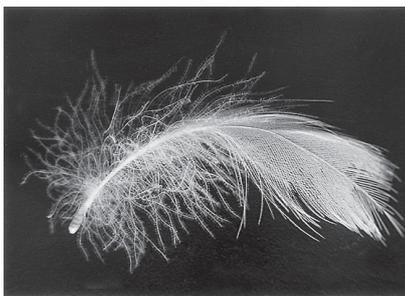
羽毛製品

ガチョウやアヒルなどの水鳥から採取される羽毛には、ダウン（ワタ羽）とフェザー（羽根）の2種類が

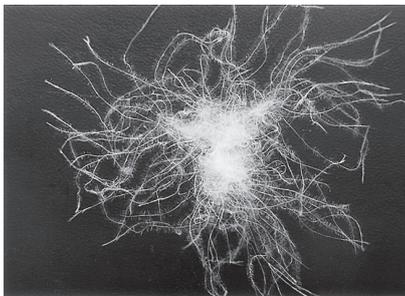
羽毛の羽枝と小羽枝には、相互に絡み合わず反発しあう性質があり、羽毛のよじれや型崩れを防止すると同時に、何回折りたたんでもすぐに元の形に戻ることも可能にしている。しかも、その反発が瞬間的なため、かさ高性も直ちに回復し、羽枝の間にふたたび多量の空気を含んで保温性も保たれる。

品質の優れたダウンが十分に詰め込まれている製品であれば、羽毛製

事故の内容も様々あるが、羽毛自体の品質に直接関係するものは見当たらない。こうしたデータは、受付や引渡のときの参考として役立つものと思われる。



フェザー



ダウン



ランドリーによる処理で絡み合ってしまった羽毛の塊



羽毛が移動して片寄りが生じたダウンジャケット

- 品名…ダウンジャケット
- 素材…本体・ポリエステル 100%
中綿・ダウン 70%・フェザー 30%

■取扱い絵表示



- 処理方法…石油系ドライクリーニング、洗浄時間2分、脱液時間2分、ネット使用、乾燥・仕上げについては不明。